

中間とりまとめに関連する前回までの検討会における御指摘事項

注：下記では、中間とりまとめに関連する第6回及び第7回（前回）検討会での御指摘を整理している。

| 番号 | 項目 | 御指摘の概要 |
|----|---|---|
| 1 | 企業にとって使いやすい手法の名称 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ WET、生物応答等の用語は一般向けには難しい。 ➤ 日本語の名称の方がよいのではないか。 ➤ 本手法が従来の法令遵守よりは総合的な水環境の管理に寄与することが分かるような名称を検討してほしい。 |
| 2 | 関係者の理解促進等のために作成する文書の名称等 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ とりまとめを「ガイドライン」という名称・位置付けにすると、事業者の立場からは法令ではないものの遵守すべき基準等が示されたものという印象を受ける。手引き、手順書などの名称の方が使いやすい。 ➤ 「ガイドライン」には強制性はないので、名称に用いても問題ないのではないか。 ➤ 「改善」という用語は、マイナスの現状から改善していく印象を受けるので、別の用語を使う方がよいのではないか。 |
| 3 | <p>①手法を活用したい事業者にとってのメリット等の整理、発信等</p> <p>②他の関連する水生生物保全に関する関係者の自主的取組との関係性</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 本手法には様々な技術的な難しさがあるが、その上で本手法を用いることは、国内では排水基準の遵守等よりも進んだ自主的な取組の一つと考えてよいのではないか。 ➤ WGで整理された手法の技術的な特徴・長所を、国、自治体といった行政や関係者が前向きに評価するような方策を、工夫して考える必要があるのではないか。 ➤ あえてコストをかけて法令遵守以上の取組を自主的に行うような企業の姿勢を、とりまとめでも前向きに評価することが重要。 ➤ 企業にとっての排水管理の位置付けや重みは、業種、規模、立地環境、メーカーの場合には製造製品の種類や多様性等の非常に多数の要素によって全く異なる。全ての企業・事業場にとって本手法が先進的な取組と述べるのは言い過ぎだが、企業によっては自主的に活用してみることであれば良いのではないか。 ➤ 水環境・水管理といった観点からは、企業は本手法だけでなく、様々な自主的取組を行っている。本手法はその中の一つだということが分かるようにまとめていくべき。 ➤ 企業が行っている様々な取組を、共通の社会的目標・課題、例えば、「健全な水環境」の保全といったより大きな流れの中でそれぞれを位置付けられないか。 ➤ 公共用水域における生物（バイオ）モニタリングも、水生生物保全や生物多様性保全に関係する取組で、本手法と関係性がある。 |

| 番号 | 項目 | 御指摘の概要 |
|----|-------------------------|---|
| 4 | 生物応答試験の結果等の取扱、その際の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 事業者にとっては、技術的な評価が専門的にも必ずしも簡単ではない個々の生物応答試験の結果についてどのように関係者に説明するのが、大きな課題。 ➤ 試験結果の取扱は、それぞれの事業者が柔軟に扱えるようにすべき。 ➤ 何らか試験結果の評価の目安を明示した方が、事業者自身も結果を理解しやすいということはないのか。 ➤ 市民等の関係者は、技術的にどの程度の取組効果があるということもさることながら、事業者がどのような姿勢でその取組をしているのかを見ているのではないのか。 |
| 5 | とりまとめにおけるパイロット事業の結果の整理等 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 本手法を活用したい場合の一般的な手順等をまとめることは重要。その上で、本手法は技術的に有効性が高いケースと必ずしもそうでないケースがあり、活用したい事業者が、ニーズに応じて様々な課題も含めて手法について理解できるように事業結果を整理する必要。 ➤ 例えば、2年間事業を実施した段階でも、生態影響が排水から検出された全ての事業場において、その原因の特定又は推定に至っている訳ではないことなど、本手法を活用した場合の工数を含めた「難しさ」については、結果の整理においてしっかり明記することが必要。 ➤ 取組のコストについて、何らか情報を盛り込むことはできないか。 ➤ 事業者にとって、本手法を使うことで自らは予想していなかった要因で排水に生態影響がみられたケースが出てきた場合には、そのような観点からも意義があることが理解できるように事業結果を整理してほしい。 |
| 6 | その他 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ とりまとめの概要版を作成していくなれば、初めて本手法を使う事業者を想定するのか、一般向けとするのか等で内容が大きく変わってくる。 |